余市町生活支援体制整備事業

おたがいさまのまち 通信

余市町出身のケアマネジャー工藤倫子さんは、小樽市にて「ちょっとおせっかいがまちを救う講座」という、とてもユニークな活動を行っています。ご近所同士の声かけによって、孤立防止や困りごとの解決につながっていくことを目指すものです。支え合いの地域づくりを進める“生活支援体制整備事業”の一環として、工藤さんにお話を伺いました。

Q このような活動を始められたきっかけを教えてください。

A きっかけは、ケアマネ同士の「介護保険は“点”であるが、困り事は“点ではなく線”である」「昔は人のつながりがもっとあった」「“おせっかい講座”なんていいんじゃない？」という会話からです。介護保険などの公的制度の隙間を、近所の人、商店の人など身近な人たちとのつながりで補うことが出来ればと活動しています。

Q 講座を開催し、どのような反応がありましたか？

A 地域で働いている方から、変化が気になる高齢者について、「おせっかいかもしれないけれど」と情報が寄せられたことがありました。その後、コンタクトをとれた際に高齢者ご本人からとても感謝され、今後困った時の安心感や新たなつながりが生まれました。

Q 「孤立はすぐには起きない」と話されていましたが、「高齢者の孤立」という問題について、どのようなことを感じていらっしゃいますか？

A ケアマネジャーとして月に一度訪問する際に「もう帰っちゃうの？」と言われることがよくあります。「高齢者の孤立」はとても深いところから始まっています。周囲が「さみしい」や「孤独」にいかに気付いてあげられるかということ、そして周囲が関わりを持てるようにすることが大切です。

今回、工藤さんに講師をお願いし、「ちょっとおせっかいがまちを救う講座」を余市町でも開催することとなりました。日頃の挨拶や少しの気づきが、誰かの助けにつながることがあります。明日からの暮らしが少し豊かになる身近なヒントを一緒に教わりませんか。

みんなで育てる“おたがいさま”のまち2026

～ちょっとおせっかいがまちを救う～

おせっかいで
みんなを笑顔に
しませんか？

講師 工藤倫子（くどうともこ）氏（合同会社 BuhiSiba 代表）

日時 11月28日（土）13：30～　**場所** 余市町中央公民館